

音楽科学習指導案

平成 19 年 10 月 3 日（水）～平成 19 年 10 月 30 日（火）

第 3 学年（男子 10 名 女子 6 名 計 16 名）

指導者 富岡 千春

場所 音楽室

1 題材名 曲の気分を かんじとろう（教育芸術社「小学生の音楽 3」）

2 教材

（主教材）出発（組曲「冬のかがり火」から）（鑑賞）プロコフィエフ作曲

ちびっこカウボーイ（歌唱）阪田寛夫 作詞／アレキス 作曲／長谷部匡俊 編曲

ゆかいな木きん（歌唱・器楽）小林純一 作詞／作曲者不明／原由多加 編曲

（副教材）ことざ 神山純一 作曲／瀑布の轟き（組曲「ナイアガラ大瀑布」から）グロフェ 作曲

雌鳥と雄鳥（組曲「動物の謝肉祭」から）サン・サーンス 作曲

ガボット ゴセック 作曲／メヌエット ベートーベン 作曲

夏（「四季」から）ビバルディ 作曲

プロムナード 1・2・4（「展覧会の絵」から）ムソルグスキー 作曲

小ぎつね 勝 承夫 作詞／ドイツ民謡

3 題材・教材について

（1）児童の実態

< 関心・意欲・態度 >

歌唱・器楽への関心が高く、約 70 %以上の児童が意欲的に取り組む。鑑賞・創作においては、授業が楽しいと感じている児童が半数である。「教師の演奏するドラムに合わせて身体表現やリズム遊びをする」といった遊びの要素を取り入れると、取組が意欲的になる。

< 音楽的な感受や表現の工夫 >

60～80%の児童が、音色・リズム・強弱に気付いて曲を聴くことができる。また、そうした児童は、曲の山を感じ取って強弱の工夫を行うことができる。旋律の反復は約 60%の児童が、旋律の変化は約 20%の児童が感じ取ることができる。また、約半数の児童が旋律の特徴に気付くことができ、特徴を生かした歌唱や器楽の工夫をすることができる。

< 表現の技能 >

（歌唱）自分の歌声に気を付けて、自然で無理のない発声で歌うことができる児童が多い。また、歌詞の表す情景や気持ちを想像して歌唱表現に生かすことができる児童もいる。

（器楽）ほとんどの児童が音楽を聴いて演奏したり、楽譜を見て演奏したりできる。また、約 50%の児童が階名唱や視奏をスムーズに行うことができる。旋律の反復・変化を生かして演奏できる児童もいる。

（創作）リズムづくりや旋律づくりを取り入れたリズム遊びや旋律遊びの中で、ほとんどの児童が即興的に音づくりをすることができる。

< 鑑賞 >

約 50%の児童が理由を付けて曲のよさを言葉で表現することができる。諸要素と関連付けて曲のよさを表現できる児童は約 25%であり、主に音色や強弱・速度に関する記述が多い。旋律の特徴や反復・変化に気付いて聴くことができる児童も数名見られる。曲全体の雰囲気や気分を感じ取ったり、情景を想像したりできる児童は約 25%である。

（2）題材設定の理由

本題材は、学習指導要領の内容 A (2)「曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現で

きるようにする。」(4)「音楽をつくって表現できるようにする。」ア「音の組み合わせを工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現すること。」B(1)「音楽を聴いてそのよさや美しさを味わうようにする。」ア「曲想の変化を感じ取って聴くこと。」イ「主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素に気を付けて聴くこと。」との関連を図り、指導を行っていくものである。

3年生では、旋律に重点を置いた活動が求められている。そこで本題材では、曲想を特徴付けているものはリズムや速度・強弱だけでなく、旋律の特徴や反復・変化も重要であることに気付き、曲全体のよさや美しさを感じ取って、表現の工夫ができるようにしたいと考えた。具体的には、「曲を聴き、自分なりのイメージをもつ。」「なぜそのような感じがしたかを旋律の特徴や変化に着目して身体や言葉などで伝え合う。」「曲想と諸要素のかかわりから、曲のよさや美しさを感じ取り、言葉で伝える。」「曲のよさや美しさが生きるよう、表現の工夫をする。」といった活動から、曲想をとらえ、曲のよさや美しさを感じ取る力や感じ取ったことを生かして表現する力を培いたいと考えた。

(3) 教材選択の観点

本校3年生児童は、構成が複雑なものより、リズムや旋律が単純でわかりやすく、歩いたり身体でリズムを刻んだりする曲に興味を示す。そこで、速度の揺れが少なく、旋律の反復や変化に気付くことが容易で、情景を思い浮かべやすい曲を選択した。

<主教材>

『出発』

前回の学習指導要領で2年生の共通教材であったこの曲はABAの構成であり、主な旋律も二種類と、旋律を覚えたり旋律の変化を感じ取ったりする活動に適した曲である。Aの部分は、スネアドラムと弦楽器で奏される八分音符を基調とした旋律やトランペットで奏される汽笛を表す音から、蒸気機関車が走る様子を容易に想像することができる。一つ目の旋律が二回繰り返され、汽車に乗ったウキウキした気分や窓の外の情景を共感しながら感じ取ることができる。Bの部分は、リズム伴奏が十六分音符と変わり、汽車の速度が変化したかのように想像できる。この部分は、二つ目の旋律が楽器や調が変化して三回繰り返される。旋律の変化と情景の変化を関連付けて聴くことができる。

『ちびっこカウボーイ』

前半は八分音符を基調としたリズムで弾んだ感じ、後半は四分音符や付点四分音符・二分音符から構成された流れる感じと、曲想の変化を容易に感じ取り、表現に生かすことができる曲である。また、後半にはf¹g¹a¹c²の構成音から成るリコーダーの対旋律がつけられ、なめらかな曲想を生かして、演奏の工夫を行うことができる。

『ゆかいな木きん』

第1・第2・第4フレーズは旋律が少しずつ変化している。その変化や言葉のおもしろさに気付いて、表現の工夫に生かすことができる。第3フレーズでは、「あっち」「こっち」の言葉から、強弱の変化の工夫を行うこともできる。主旋律に対して二声部の簡単な伴奏が付けられているので、楽器を選んで合奏を楽しむこともできる。

<副教材>

曲の聴き方や表現の仕方を学ぶ、授業の導入段階で用いる。旋律を覚える【旋律さがし】の活動で用いる『ガボット』『メヌエット』『プロムナード』は、旋律の反復や変化をとらえることが容易な曲である。旋律の変化による曲想の変化を感じ取る【変化さがし】の活動で用いる『こぎつね』は、2年生で学習した児童の聴きなじみの旋律であるので、旋律の変化から、様子や気分の変化をとらえることができる。他の曲は、特徴のある旋律が表れるため、情景を想像して聴く【曲名さがし】の活動に適していると考えた。

(4) 学習指導と支援の方法

- ・児童が意欲的に授業に参加し、自然によさや美しさを感じ取って聴いたり、表現の工夫をしたりする能力が身に付くように、題材を通して「曲の宝さがし」の活動を取り入れる。
- ・活動に消極的な児童や、集中力が続かない児童が意欲的に活動に参加できるように、身体表現・鑑賞・表現などの活動を組み合わせて1時間の授業を行う。
- ・友達のを聞き自分の考えと比べられるように、ハンドサインで意思表示する活動を取り入れる。

- ・曲の聴き方を学ぶことができるように、授業の導入部分で【曲名さがし】【変化さがし】【旋律さがし】の活動を設定する。
- ・【曲名さがし】では、曲名を付けた理由を見付けることができるように、音楽の諸要素を探して身体や言葉で伝える活動を取り入れる。
- ・【変化さがし】では、曲想の変化を感じ取ることができるように、『こぎつね』『ゆかいな木きん』の旋律の変化に気付いてタイトルを付ける活動を取り入れる。
- ・【旋律さがし】では、旋律の特徴を感じ取ることができるように、「身体表現」「歌詞付け」「タイトル付け」から旋律を覚える活動を取り入れる。
- ・即興表現の力を高めることができるように、授業の導入部分でテーマに合った旋律づくりをする活動を取り入れる。
- ・鑑賞の活動では、音楽の諸要素と曲全体のよさや美しさを関連付けて感じ取る力を培うことができるように、次のような学習の流れで指導を行う。また、児童が主体的に曲を聴くことができるように、「宝さがしワークシート」を準備する。
 - 曲の印象を感じ取り、身体や言葉などで伝える。
 - 旋律の特徴・反復・変化と曲想の変化を関連付けて聴き、身体や言葉などで伝える。
 - 曲全体のよさや美しさを言葉で伝える。
- ・表現の活動では、曲のよさや美しさをとらえ、それらを生かした表現の工夫ができるように、次のような学習の流れで行う。創作では、つくった音を記録するために、ワークシートを準備する。
 - (歌唱) 範唱を聴き、曲想が変化したところを探し、手を挙げたり身体表現を変えたりする。
範唱や楽譜・身体表現から、曲想がどう変化したかを探し、伝え合う。
曲想の変化を生かし、強弱・言葉の言い方・発声の仕方など、どう歌いたいかを伝え合い、歌唱表現する。
 - (器楽) 範唱を聴き、曲の印象や気付いたことを伝え合う。
楽譜に色を塗り、旋律の反復・変化に気付く。
旋律の反復・変化を生かして器楽練習をする。
歌唱表現の工夫を器楽表現にも生かす。
 - (創作) 「こざる」「こぶた」の代わりに「ねずみ・こぐま・うさぎ」から一つ動物を選ぶ。
「コンコンコン」の部分の旋律をつくる。四つの提示された旋律から動物の様子に合うものを選ぶか、提示されたリズムから自分で旋律をつくるかどちらかの方法で創作する。
選んだ動物と旋律から、橋渡りの様子を表す歌詞をつくる。
つくった曲を歌詞と木琴で演奏する。
- ・器楽が苦手な児童も意欲的に取り組むことができるように、リズム唱・階名唱・視奏の順に指導者の範唱・範奏を繰り返す活動を取り入れる。

4 目標

旋律の反復・変化に気付いて曲想の変化を感じ取り、主体的に曲を聴いたり表現を工夫したりできる。

5 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	曲想やその変化に関心をもち、進んで表現や鑑賞をしようとしている。	旋律の反復・変化を感じ取って聴き、音楽表現の工夫に生かしている。	曲想と旋律の関連を感じ取って、演奏することができる。	情景を想像しながら、曲想の変化を感じ取って聴くことができる。
歌唱				
器楽				
創作				
鑑賞				
具体の 評価規準	歌詞に合うよう楽器やリズムを選んで音づくりをし、つくった音を進んで発表しようとしている。 友達の考えとの類似点や相違点を見つげながら、曲を聴こうとしている。	旋律の反復・変化から、曲想の変化を感じ取っている。	曲想の変化が生かせるよう、声の出し方を工夫して歌うことができる。 旋律の反復・変化に気付いて、拍の流れにのって演奏することができる。	情景と曲想・諸要素を関連付けて聴き、言葉や身体などで伝えることができる。

6 指導と評価の計画 <全6時間>

次時	学習活動・主な指導上の留意点 宝さがし1 宝さがし2 宝さがし3 『使用する曲』	具体的評価規準 (評価方法)	
ねらい：曲を聴いて曲想をとらえたり、旋律の反復・変化を感じ取って、身体や言葉で伝えたりできる。			
1 次	1 【曲名さがし】の活動をする。 ・曲名を付けた理由を見付けることができるように、音楽の諸要素を探して身体や言葉で伝える活動を取り入れる。『ことわざ』『瀑布の轟き』『雌鳥と雄鳥』 【変化さがし】の活動をする。 ・曲想の変化を感じ取ることができるように、『こぎつね』の旋律の変化に気付いてタイトルを付ける活動を取り入れる。 <評価イ>	「ちびっこカウボーイ」の曲想の変化を探す。 ・曲の印象や曲想の変化を感じ取ることができるように、曲想の変化に合わせて身体表現をする活動を取り入れる。	
	2 【旋律さがし】の活動をする。 ・旋律の特徴を感じ取ることができるように、「身体表現」「歌詞付け」「タイトル付け」から旋律を覚える活動を取り入れる。『ガボット』『メヌエット』『夏』	『出発』の情景を想像したり、曲想の変化に気付いたりしながら聴き、出てくる乗り物や根拠となる音を探す。 ・感じたことを共感できるように、全体の印象や曲想の変化を身体表現や言葉で伝え合う活動を取り入れる。	『ちびっこカウボーイ』を特徴付ける諸要素を探し、曲の特徴を生かした歌唱表現の工夫をする。 ・曲の特徴をとらえて演奏の工夫ができるように、範唱や楽譜を手がかりに話し合う活動を取り入れる。<評価ウ>
	3 【変化さがし】の活動をする。 ・曲想の変化を感じ取ることができるように、『ゆかいな木きん』の旋律の変化に気付いてタイトルを付ける活動を取り入れる。	『出発』の初めの部分Aを聴き、情景を想像したり、根拠となる音を探したりする。 ・考えを共感することができるように、身体表現や思い浮かぶ情景を発表し合う活動を取り入れる。	『ゆかいな木きん』の範唱を聴き、曲の印象や気付いたことを探して伝え合い、歌詞唱をする。 『ゆかいな木きん』の旋律の反復・変化を探して、器楽練習に生かす。 ・旋律の反復・変化に気付くことができるように、旋律ごとに色分けをした旋律カードを準備する。<評価ウ>
ねらい：曲のよさを言葉や身体などで伝えたり、曲想が生きるような表現の工夫をしたりすることができる。			
2 次	4 即興的に旋律をつくる活動をする。 ・即興表現の力を高めることができるように、テーマに合った旋律づくりをする活動を取り入れる。	『出発』の中間部分Bの旋律の反復・変化を探して聴き、情景の変化を想像して絵と言葉でワークシートに記入する。 ・旋律の変化と情景の変化を関連付けて聴くことができるように、絵や言葉で感じたことを表現できるワークシートを準備する。 <評価エ>	『ゆかいな木きん』の身体表現から曲の気分を感じ取り、旋律の特徴も生かしながら、歌唱表現を工夫する。 ・曲の気分を歌唱表現に生かすことができるように、身体表現を見合う活動を取り入れる。
	5 【旋律さがし】の活動をする。 ・曲想の変化をとらえることができるように、旋律の特徴を身体表現で表す活動を取り入れる。 『プロムナード1・2・4』	『出発』の中間部Bを聴き、イメージした情景や探した音を、絵や言葉で伝え合う。 ・友達の考えと自分の考えを比べることができるように、ハンドサインや言葉で意思表示をするよう伝える。<評価ア>	探した旋律の反復・変化を生かして、『ゆかいな木きん』の器楽練習をする。 ・能力に応じて演奏できるように、色分けした旋律カードを準備する。
	6 『出発』の全体を味わって聴き、曲のよさや美しさ伝える手紙を書く。 ・曲全体のよさや美しさをとらえることができるように、旋律の変化や諸要素の働きに関連付けて書くよう助言する。	『ゆかいな木きん』の演奏を楽しむ。 『ゆかいな木きん』に合う旋律や言葉を探し、創作表現をする。 ・イメージを膨らませて音づくりができるように、橋を渡る動物と旋律の選択やどんな様子で渡るかのイメージを言葉に表すワークシートを準備する。<評価ア>	ア（発表・活動の観察）

7 本時の学習（第1時）

(1)ねらい 曲を聴いて感じたことを身体や言葉を使って伝える活動から、曲想をとらえることができる。

(2)準備 教師：【曲名さがし】用ワークシート・CD、【変化さがし】発表用紙

ヒントカード、掲示用「宝さがしワークシート」（『ちびっこカウボーイ』用）

『ちびっこカウボーイ』CD、フラッシュカード、振り返り用紙

児童：教科書、リコーダー、筆記用具

(3)展開

学習活動 『使用する曲』	時	指導上の留意事項 具体的評価規準（評価方法） Aとする場合のキーワード Cと判断される児童への働きかけ
<p>【曲名さがし】の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴き、曲名を付ける。 ・曲名を付けた理由を探し、ワークシートに記入する。 <p>『ことわざ』『瀑布の轟き』 『雌鳥と雄鳥』</p> <p>【変化さがし】の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化した『こぎつね』の旋律を聴き、タイトルを付け、発表用紙に記入する。 	20分	<p>流れた旋律の雰囲気を感じ取ることができるように、目を閉じて聴くよう促す。</p> <p>曲名を付けた理由を探ることができるように、ヒントとなる要素を掲示し、身体表現や言葉でどう伝えるかを話し合うようにする。</p> <p>今後の活動で活用できるように、児童から出された意見は、ヒントカードに記入する。</p> <p>考えを共有するために、「曲名」「曲名を付けた理由」を発表するよう促す。友達の考えをじっくり聞くために、賛同できる考えには「パー」、自分の考えと違うものには「ゲー」のハンドサインで意思表示をするよう促す。</p> <p>曲想が変化することを感じ取ることができるように、リズム・調・速さ・音域を変化させて旋律を演奏する。また、「なこぎつね」のように、タイトルを付けることを伝える。</p> <p>クイズのような感覚で楽しく活動できるように、タイトルを記入した発表用紙を友達に見せながら一斉に挙げるよう伝える。</p> <p>友達の考えを共有するために、タイトルを付けた理由を発表するよう促す。</p> <p>旋律の反復・変化から、曲想の変化を感じ取っている。イ（ワークシート・身体表現・発言の観察）</p> <p>曲想に合った曲名やタイトルを付け、そう感じた理由も説明している。身体表現を参考にしよう伝えたり、ヒントとなる言葉掛けをしたりして、曲想を感じ取ることができるようにする。</p>
<p>『ちびっこカウボーイ』の歌詞唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取る。 ・歌詞唱をする。 <p>本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りと次時のめあての確認をする。 	25分	<p>友達の考えに気付き共感できるように、範唱を聴いた印象を掲示用「宝さがしワークシート」に記入する。</p> <p>曲想の変化を感じ取ることができるように、曲の気分が変わったところで挙手をするよう伝える。</p> <p>旋律の変化を感じ取ることができるように、身体表現や言葉で旋律の特徴を表す活動を取り入れる。</p> <p>旋律や歌詞を覚えることができるように、範唱に合わせて歌ったり、指導者の伴奏で歌ったりする活動を取り入れる。</p> <p>本時の授業を振り返り、次時のめあてをつかむために、振り返り用紙に記入するよう促す。</p> <p>音楽の活動に対して自信をもつことができるように、たくさんの「曲の宝」を探せたがんばりを認め、賞賛する。</p>

7 本時の学習（第2時）

- (1)ねらい 曲を聴いて、感じ取ったことを身体や言葉や音で表現することから、曲想の変化を伝えることができる。
- (2)準備 教師：【旋律さがし】用CD、『出発』CD、「宝さがしワークシート」児童用、ペン、フラッシュカード
 掲示用「宝さがしワークシート」（『出発』用）『ちびっこカウボーイ』CD、振り返り用紙
 児童：教科書、リコーダー、筆記用具

(3)展開

学習活動 『使用する曲』	時	指導上の留意事項 具体的評価規準（評価方法） Aとする場合のキーワード Cと判断される児童への働きかけ
「旋律さがしゲーム」の活動をする。 ・三つの方法で旋律を覚え、流れた旋律を覚えた方法で表現して当てる。 『ガボット』『メヌエット』『夏』	10分	旋律の特徴を感じ取ることができるように、三つの曲を「身体表現」「歌詞を付ける」「曲名を付ける」の方法で旋律を覚えるよう伝える。（『ガボット』（身体表現）『メヌエット』（歌詞：<例>「わたしといっしょに おーどーりましょう。みんなでいっしょに さあおーどーりましょう」）『夏』（曲のタイトル）） 覚えた旋律を三つの方法で伝えることができるように、どの旋律が流れたかを当てる活動を取り入れる。
『出発』の全体を情景を想像しながら聴く。 ・どんな乗り物に乗っているか、想像しながら聴く。 ・曲想の変化を感じ取って聴く。	20分	目的をもって聴くために、どんな乗り物に乗っている様子かを想像しながら聴くよう伝える。また、じっくりと聴くために、目を閉じて聴くよう促す。 全体の曲想を感じ取るために、どんな乗り物だと思いか、なぜそう思うかを「宝さがしワークシート」に記入するよう促し、探した音を根拠に話し合うようにする。汽笛の音、規則的に流れる汽車の走る音などに気を付けて聴くよう助言する。 汽車を表す特徴的な音やリズム伴奏に気付くことができるように、乗り物が「汽車」であることを知らせ、旅の様子を想像しながら身体表現をする活動を取り入れる。また、友達の表現のよさに気付くことができるように、三つのグループに分かれ、お互いの表現を見合う活動を取り入れる。 曲想の変化に気付くことができるように、曲想が変化したところでは身体表現を変えることを伝える。また、初めの部分Aのはずむ感じ、中間部Bの流れる感じの旋律の変化に気付いている児童がいたら、他の児童に紹介し、動きをまねをするよう伝える。 旋律・リズム伴奏の変化に気付くことができるように、なぜ曲想が変化したと思いかの理由を「宝さがしワークシート」に記入するよう伝える。また、考えを共有するために、曲想が変化した理由を話し合うよう促す。
『ちびっこカウボーイ』の表現の工夫をする。 ・どう工夫するか話し合う。 ・工夫を生かした歌唱表現をする。 本時のまとめをする。 ・本時の振り返りと次時のめあての確認をする。	15分	曲想がどう変化したが気付くことができるように、範唱を聴く・楽譜や歌詞を見る・身体表現をする・手を挙げるなどの活動を取り入れる。その際、前半の八分音符や付点八分音符・十六分音符のリズム、終わりの部分の八分音符・十六分音符のリズムや歌詞から、はずむようにはっきり歌うことを確認する。また、後半の二分音符や「ラ」の歌詞からなめらかに強く歌うこと、旋律が反復される箇所では、強弱の工夫をすることを確認する。 友達の考えを共有するために、気付いたことを発表し合うよう促す。出された意見は、掲示用「宝さがしワークシート」に記入する。 曲の特徴を生かして曲想に合った表現ができるように、声の出し方や演奏の仕方を工夫するよう助言する。その際、それぞれの児童の表現が聴き取れるように、フレーズごとに交互演奏をする活動を取り入れる。 曲想の変化が生かせるよう、声の出し方を工夫して歌うことができる。ウ （表現の聴き取り） 前半ははずむ感じで生き生きと、後半はなめらかに堂々と歌うことができる。 発声を確認したり、指導者や友達と一緒に歌うなどの支援をする。 曲想を生かした表現ができたことを認め合うために、全員で「ちびっこカウボーイ」を歌うよう促す。 本時の授業を振り返り、次時のめあてをつかむために、振り返り用紙に記入するよう促す。 聴き方の定着を図るために、じっくりと曲を聴くことができたことを認め、賞賛する。

7 本時の学習（第3時）

(1)ねらい 旋律の反復・変化と曲想の変化を探す活動から、曲想と旋律の関連に気付いて曲を聴いたり表現をしたりできる。

(2)準備 教師：【変化さがし】発表用紙、『出発』CD、「宝さがしワークシート」児童用
 掲示用「宝さがしワークシート」（『出発』用）フラッシュカード、ヒントカード
 『ゆかいな木きん』CD、楽譜の一部をかいたカード、振り返り用紙
 児童：教科書、筆記用具、色鉛筆、鍵盤ハーモニカ、リコーダー

(3)展開

学習活動 『使用する曲』	時	指導上の留意事項 具体的評価規準（評価方法） Aとする場合のキーワード Cと判断される児童への働きかけ
<p>【変化さがし】の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 変化した『ゆかいな木きん』の旋律を聴き、タイトルを付け、発表用紙に記入する。 	8分	<p>曲想が変化することを感じ取ることができるように、リズム・調・速さ・音域を変化させて旋律を演奏する。</p> <p>クイズのような感覚で楽しく活動できるように、タイトルを記入した発表用紙を友達に見せながら一斉に挙げるよう促す。</p> <p>友達の考えを共有するために、タイトルを付けた理由を発表するよう促す。</p>
<p>『出発』の初めの部分Aの情景を想像する。</p>	12分	<p>情景を想像できるように、ホルンで奏される最初の旋律、汽車の走る音を表した音、軽やかにはずむ感じの旋律に注意を向けるよう助言する。</p> <p>旋律の特徴を感じ取ることができるように、第1時で使用したヒントカードを基に、身体表現をする活動を取り入れる。</p> <p>様々な友達の意見に気付くことができるように、思い浮かぶ情景やそう感じた理由を「宝さがしワークシート」に書き、発表し合うよう促す。また、全員の児童が共感できるように、掲示用「宝さがしワークシート」に児童の意見を書く。</p>
<p>『ゆかいな木きん』の歌詞唱をしたり鍵盤ハーモニカで演奏をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴き、曲想を感じ取る。 旋律を覚えて歌詞唱をする。 工夫して鍵盤ハーモニカの練習をする。 <p>本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りと次時のめあての確認をする。 	25分	<p>曲想を感じ取ることができるように、範唱を聴いて気付いたことを発表するよう促す。また、考えを共有できるように、旋律・強弱・歌詞など児童から出された内容ごとにまとめ、掲示用「宝さがしワークシート」に記入する。旋律の反復・変化については、器楽の活動と関連を図る。</p> <p>曲全体の雰囲気をつかむために、自分や友達の意見を意識しながら歌詞唱するよう促す。</p> <p>旋律の反復・変化を探すために、掲示した旋律ごとに色分けした楽譜（1フレーズ目）を見ながら、自分の楽譜に色を塗るよう促す。2フレーズ目以降は、自分の力で色塗りをするよう促す。</p> <p>旋律の反復・変化に気付くことができるように、鍵盤ハーモニカで初めに繰り返される旋律を練習し、次に変化している旋律を探して練習するよう助言する。また、反復や変化が意識できるよう、旋律ごとに交互演奏をする活動を取り入れる。</p> <p>全員が演奏に参加できるように、能力に応じて曲を全部演奏したり、部分的に演奏したりするよう伝える。</p> <p>学習意欲が持続するように、鍵盤ハーモニカができるようになった児童には、リコーダーパートの練習をするよう助言する。</p> <p>旋律の反復・変化に気付いて、拍の流れにのって演奏することができる。</p> <p>ウ（表現の聴き取り）</p> <p>拍の流れにのって、鍵盤ハーモニカで、全曲を演奏することができる。</p> <p>指導者の階名唱に合わせて反復が多い旋律を練習するよう促す。</p> <p>演奏を楽しく行うために、最後に歌詞唱か鍵盤ハーモニカの演奏のどちらかを選択して演奏するよう伝える。反復部分を意識付けるために、音符がかいてあるカードを挙げる児童を指名する。</p> <p>本時の授業を振り返り、次時のめあてをつかむために、振り返り用紙に記入するよう促す。</p> <p>音楽の活動に対して自信をもつことができるように、旋律の反復・変化を生かした器楽練習ができたことを認め、賞賛する。</p>

7 本時の学習（第4時）

(1)ねらい 曲を聴いて感じ取ったことを身体表現や絵・言葉で表すことにより、思い浮かんだ情景の変化と旋律の変化を関連付けて聴くことができる。

(2)準備 教師：『出発』CD、「宝さがしワークシート」児童用、鑑賞曲用歌詞カード
 「窓から見える景色」のワークシート
 掲示用「宝さがしワークシート」（『出発』用）（『ゆかいな木きん』用）、
 フラッシュカード、さるとぶたの面、振り返り用紙
 児童：教科書、筆記用具、クレヨン、色鉛筆

(3)展開

学習活動 『使用する曲』	時	指導上の留意事項 具体的評価規準（評価方法） Aとする場合のキーワード Cと判断される児童への働きかけ
即興的に、旋律をつくる活動をする。	10分	即興的にイメージに合った音をつくる能力を培うために、「ソ」「ラ」「シ」「ド」の4音から、リコーダーでリレーしながら旋律をつくることを伝える。スムーズに演奏できるように、4音の運指を確認する。 旋律をつくりやすいように、「ウキウキ」「しんぱい」「ドキドキ」「きれいな」の違うイメージのテーマを示し、一つを選択してつくるよう伝える。音を聴き取る力を培うために、発表が終わった児童は、友達の音を聴き取って旋律の繰り返し演奏をするよう助言する。 拍の流れにのることができるように、キーボードでリズム伴奏を流しておく。
「ゆかいな木きん」の歌詞唱を工夫する。 ・身体表現をして、曲の気分を感じ取る。 ・曲の気分を生かして歌詞唱をする。	10分	曲の気分を感じ取るために、1番と2番のグループに分かれて歌詞唱をしながら「こざる」や「こぶた」の様子を身体表現するよう促す。「こざる」や「こぶた」の気分になるように、身体表現を行う児童には面を用意する。 友達の考えを共有することができるように、どう歌えばよいか気付いたことを発表し合う活動を取り入れる。3フレーズ目の歌詞の「あっち」「こっち」の箇所の工夫が出されなかった場合は、強弱の工夫を行うよう助言する。 歌詞唱の際に参考となるように、児童から出された意見を掲示用「宝さがしワークシート」に記入する。 表現のおもしろさを味わいながら歌詞唱ができるように、掲示用「宝さがしワークシート」を見ながら歌うよう伝える。
「出発」の中間部Bの情景を想像しながら聴く。 ・歌詞を付けて歌って、旋律を覚える。 ・三回反復される旋律の情景の変化を絵と言葉でかく。 本時のまとめをする。 ・本時の振り返りと次時のめあての確認をする。	25分	中間部で演奏される旋律を覚えるために、歌詞を考えるよう促す。児童から意見が出ない場合は、指導者が示した歌詞を付けて歌うよう促す。 旋律の変化を感じ取ることができるように、三回反復される旋律を目を閉じてじっくりと聴くよう促す。 情景の変化を想像することができるように、汽車に乗ったつもりになって身体表現しながら曲を聴く活動を取り入れる。 旋律の変化と思い浮かべる情景を関連付けることができるようにするために、汽車の窓から見える情景の変化を絵に表すよう伝える。音色や音の厚み（音の強さ）・旋律の音域・合わせて演奏される旋律などの変化に気を付けて聴くよう助言し、想像した情景に理由が書けるようにする。 情景と曲想・諸要素を関連付けて聴き、言葉や身体などで伝えることができる。 エ（観察・ワークシート） 旋律の変化と諸要素の関連に気付いて情景の変化を絵と言葉の両方で伝えることができる。 反復している旋律を数回流し、違いを言葉で表すよう伝える。 自分の考えの補充ができるように、曲の中間部をもう一度流す。 本時の授業を振り返り、次時のめあてをつかむために、振り返り用紙に記入するよう促す。 次時の学習につなげるために、身体表現・言葉・絵などで感じたことを伝えられたか確認し、よくできていた児童を認め賞賛する。

7 本時の学習（第5時）

(1)ねらい 旋律の反復・変化に気を付けて聴いたり、感じたことを身体や言葉で伝えたりすることから、器楽表現の練習の練習の仕方を工夫することができる。

(2)準備 教師：【旋律さがし】用CD、『出発』CD、「宝さがしワークシート」児童用
 掲示用「宝さがしワークシート」(『出発』用)、ヒントカード
 フラッシュカード、立奏用木琴・マレット(各種)、楽譜の一部をかいたカード
 振り返り用紙
 児童：教科書、筆記用具・鍵盤ハーモニカ・リコーダー

(3)展開

学習活動 『使用する曲』	時	指導上の留意事項 具体的評価規準（評価方法） Aとする場合のキーワード Cと判断される児童への働きかけ
「旋律さがしゲーム」の活動をする。 ・三つの旋律を聴き、身体表現で旋律を覚える。 ・流れた旋律を身体表現で表し、曲を当てる。 『プロムナード1・2・4』	10分	流れた旋律の特徴を感じ取ることができるように、三つの旋律を順に流し、身体表現で旋律を覚えるよう伝える。 プロムナード1ではトランペットで奏される華やかな旋律、プロムナード2では木管楽器で奏される低い音でゆっくりとした旋律、プロムナード4では短調の旋律に気付くことができるように、旋律の特徴についての説明をする。 旋律の特徴を聴く力を培うために、どの旋律が流れたかを身体表現をして当てる活動を取り入れる。その際、旋律の変化と曲想を関連付けて理由を言うよう伝える。
『出発』の中間部Bのイメージした情景を発表し合う。 ・前時のワークシートを基に、自分のイメージした情景を言葉で友達に伝える。	25分	旋律の反復・変化と曲想の変化とを関連付けることができるように、根拠となった諸要素とイメージした情景の両方を発表するよう促す。 友達の意見との類似点や相違点を見付けることができるように、「パー」「ゲー」のハンドサインをしながら発表を聞くよう促す。また、類似点や相違点を言葉で伝えることができる児童には、進んで発表するよう促す。 友達の考えを共有することができるように、児童から出された意見を掲示用「宝さがしワークシート」に記入する。 友達の考えのよさに気付くことができるように、情景を想像しながら全体を通して聴くことを伝え、曲を流す。 友達の考えとの類似点や相違点を見付けながら、曲を聴いている。ア （発言・挙手） 友達の考えとの類似点や相違点を進んで発表している。 友達の発表と「同じ」「違う」との意思表示を、ハンドサインで伝えるよう促す。
『ゆかいな木きん』の器楽練習をする。 ・木琴の練習をする。 ・合奏や歌詞唱奏をする。 本時のまとめをする。 ・本時の振り返りと次時のめあての確認をする。	10分	全員の児童が木琴を体験できるように、主旋律を鍵盤ハーモニカや木琴でリレー奏する活動を取り入れる。 マレットの正しい奏法が理解できるように、マレットの持ち方や打ち方の説明を行う。また、マレットの種類による音色の違いについても、範奏しながら説明をする。 能力に応じて演奏する旋律が選択できるように、色分けした旋律カードを掲示する。 音の重なりを楽しむことができるように、全員で合奏をしたり歌詞唱を加えたりする活動を取り入れる。 本時の授業を振り返り、次時のめあてをつかむために、振り返り用紙に記入するよう促す。その際、友達の考えを聞くことができたか、旋律の反復・変化を器楽練習に生かすことができたかなどの観点から振り返ることができるよう助言する。

7 本時の学習（第6時）

(1)ねらい 音楽の諸要素と関連付けて創作や鑑賞をする活動から、イメージに合う旋律を選んだり、曲のよさや美しさを言葉で伝えたりできる。

(2)準備 教師：立奏用木琴、『出発』CD、フラッシュカード、音づくり用のワークシート
『出発』の「宝さがしワークシート」(児童用・掲示用) 振り返り用紙
児童：教科書、筆記用具、リコーダー、鍵盤ハーモニカ

(3)展開

学習活動 『使用する曲』	時	指導上の留意事項 具体的評価規準（評価方法） Aとする場合のキーワード Cと判断される児童への働きかけ
『ゆかいな木きん』の演奏を楽しむ。 ・歌詞唱をする。 ・器楽練習をし、合奏や歌詞唱奏をする。	15分	音楽の学習をする雰囲気をつくるために、『ゆかいな木きん』の歌詞唱をするよう促す。また、前時までの活動を振り返るために、姿勢や曲の気分に関心しながら、曲想に合った表現ができたかを確認する。 演奏に慣れるために、『ゆかいな木きん』のリコーダーパートを練習するよう伝える。その際、指導者の階名唱・範奏に続いて演奏したり、旋律ごとに色分けした楽譜を見て演奏したりするよう助言する。 音の重なりを感じ取ることができるように、主旋律を鍵盤ハーモニカで、副旋律をリコーダーで、「コンコンコン」の部分の木琴で合奏する活動を取り入れる。 表現の高まりを実感することができるように、歌詞唱と合奏を合わせて演奏するよう促す。1番と2番の歌い方の違いや3フレーズ目の歌詞である「あっち」「こっち」の強弱の変化を合奏の際にも気付いて演奏できたかを振り返り、表現の工夫を器楽にも生かすことができることを確認する。
『ゆかいな木きん』をもとに、音づくりをする。 ・動物を選ぶ。 ・旋律を選ぶ。 ・様子に合った歌詞をつくる。 ・試し演奏をする。	20分	イメージを膨らませて音づくりができるように、「 が木ぐつをはいて、わたると～になる」の歌詞で動物を選んだり様子を考えたりし、「コンコンコン」の部分の音づくりをするよう伝える。活動のヒントになるように、動物名は「ねずみ」「こぐま」「うさぎ」の三つから、旋律は4種類から選ぶことができるようなワークシートを作成しておく。また、自分の力で旋律を作ることができる児童には、リズムの下にあるスペースに自分でつくった旋律を記入するよう伝える。 動物の動きのイメージと旋律の関連に気付くことができるように、つくった音とその理由を発表し合う活動を取り入れる。 つくった音の演奏を楽しめるように、つくった音を加えて歌詞唱をするよう促す。 歌詞に合うよう楽器やリズムを選んで音づくりをし、つくった音を進んで発表している。ア（発表・活動の観察） イメージを膨らませて意欲的に音づくりをし、発表している。 どんな音を作りたいかのイメージを聞き、一緒に音づくりをする。
『出発』の曲のよさや美しさを伝える手紙を書く。 題材のまとめをする。	10分	曲のよさや美しさを家の人にも伝えられるように、曲全体を聴いて家の人に手紙を書くよう促す。その際、前時までの学習を思い出し、旋律を中心に諸要素に関連付けてよさや美しさをとらえることができるよう伝える。理由が書けない児童には、ワークシートを振り返るよう伝える。 友達の考えに気付き共感できるように、手紙の内容を発表する活動を取り入れる。その際、手紙の中で、曲のよさや美しさに触れてある部分を掲示用「宝さがしシート」に記入する。 学習したことやできるようになったことを確認するために、振り返り用紙に記入するよう促す。 音楽の学習に対して自信や喜びをもつことができるように、表現や鑑賞の能力の高まりを認め、賞賛する。